

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 黒保根地域の特色ある教育

参加者

黒保根学園PR部隊 6名
桐生市長

傍聴者 2名
報道機関 3名

日時：令和4年6月30日（木）午後6時30分から7時30分
場所：黒保根町山村開発センター2階 研修集会室

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介

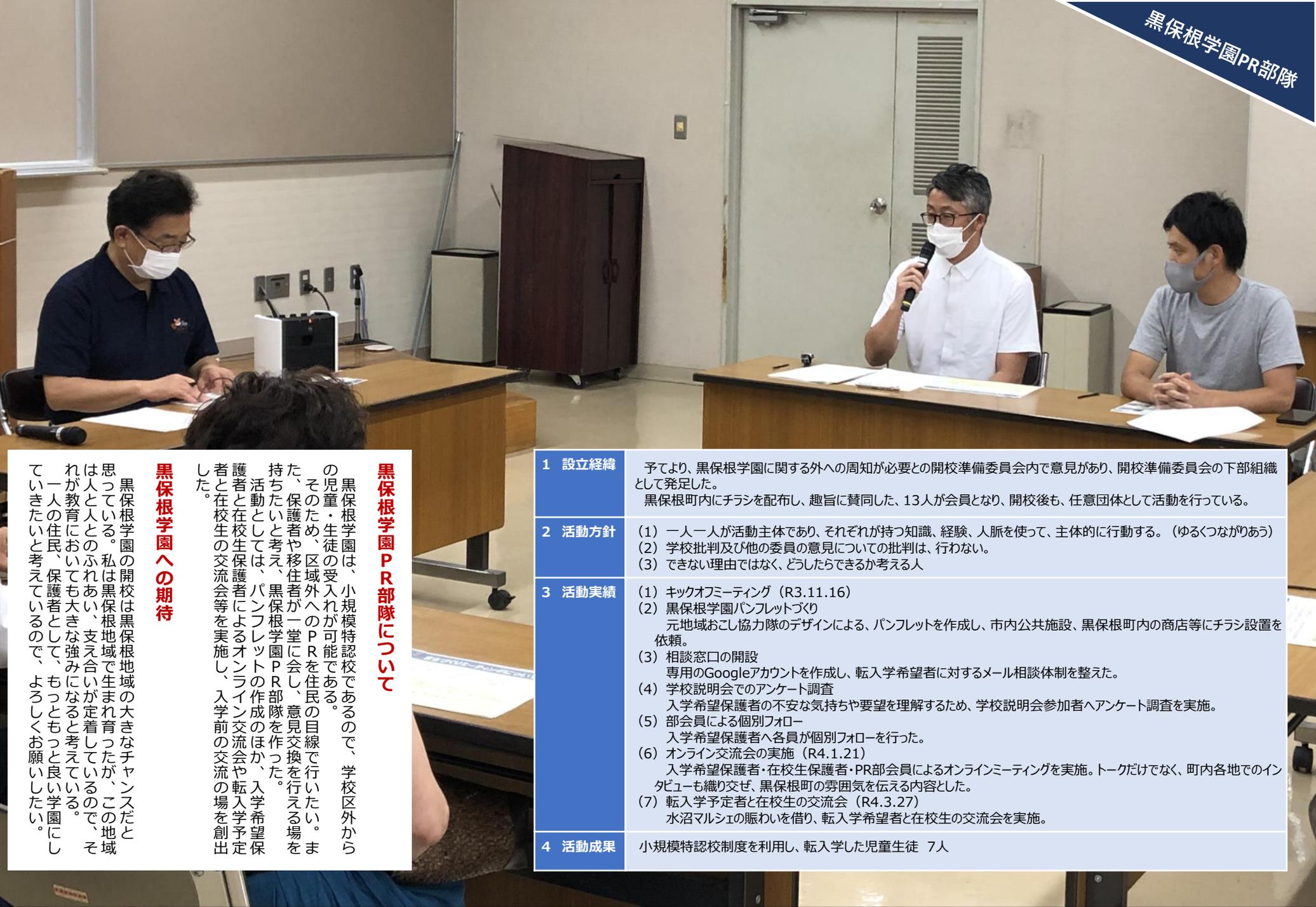
4 議題

黒保根地域の特色ある教育

意見交換のポイント

- 黒保根学園のPR活動や関わりを通じて感じていること
- 黒保根地域の特色ある教育の推進のために桐生市と共創したいこと 等

5 閉会



黒保根学園PR部隊について

黒保根学園は、小規模特認校であるので、学校区外からの児童・生徒の受入れが可能である。そのため、区域外へのPRを住民の目線で行いたい。また、保護者や移住者が一堂に会し、意見交換を行える場を持ちたいと考え、黒保根学園PR部隊を作った。

活動としては、パンフレットの作成のほか、入学希望保護者と在校生保護者によるオンライン交流会や転入学予定者と在校生の交流会等を実施し、入学前の交流の場を創出した。

黒保根学園への期待

黒保根学園の開校は黒保根地域の大きなチャンスだと思っている。私は黒保根地域で生まれ育ったが、この地域は人と人とのふれあい、支え合いが定着している。それが教育においても大きな強みになると考えている。一人の住民、保護者として、もっともっと良い学園にしていきたいと考えているので、よろしく願いたい。

1 設立経緯	<p>予てより、黒保根学園に関する外への周知が必要との開校準備委員会内で意見があり、開校準備委員会の下部組織として発足した。</p> <p>黒保根町内にチラシを配布し、趣旨に賛同した、13人が会員となり、開校後も、任意団体として活動を行っている。</p>
2 活動方針	<p>(1) 一人一人が活動主体であり、それぞれが持つ知識、経験、人脈を使って、主体的に行動する。(ゆるくつながりあう)</p> <p>(2) 学校批判及び他の委員の意見についての批判は、行わない。</p> <p>(3) できない理由ではなく、どうしたらできるか考える人</p>
3 活動実績	<p>(1) キックオフミーティング (R3.11.16)</p> <p>(2) 黒保根学園パンフレットづくり 元地域おこし協力隊のデザインによる、パンフレットを作成し、市内公共施設、黒保根町内の商店等にチラシ設置を依頼。</p> <p>(3) 相談窓口の開設 専用のGoogleアカウントを作成し、転入学希望者に対するメール相談体制を整えた。</p> <p>(4) 学校説明会でのアンケート調査 入学希望保護者の不安な気持ちや要望を理解するため、学校説明会参加者へアンケート調査を実施。</p> <p>(5) 部会員による個別フォロー 入学希望保護者へ各員が個別フォローを行った。</p> <p>(6) オンライン交流会の実施 (R4.1.21) 入学希望保護者・在校生保護者・PR部会員によるオンラインミーティングを実施。トークだけでなく、町内各地でのインタビューも織り交ぜ、黒保根町の雰囲気伝える内容とした。</p> <p>(7) 転入学予定者と在校生の交流会 (R4.3.27) 水沼マルシェの賑わいを借り、転入学希望者と在校生の交流会を実施。</p>
4 活動成果	<p>小規模特認校制度を利用し、転入学した児童生徒 7人</p>



選ばれる黒保根学園

移住者から選ばれる一歩先を見据えた特徴のある学園にしておく必要がある。また、移住者が住む場所についても教育内容とセットで考えていく必要があると考える。

このほか、学園に新しく入ってきた保護者との関りが少ないので、不安を軽減できるように、入った後のフォローがあるということも重要だと考える。

黒保根学園の雰囲気

学園が開校するまでは不安であったが、開校後に参加した授業参観や運動会を通して、空気感がすごく良くなったと感じている。大きい子が小さい子の面倒を見ており、関りがすごくある。また、先生方と子どもとの関りが多くなり、雰囲気も前よりも、もっと良くなったと思う。



黒保根学園のPR

この黒保根地域の素晴らしい環境や小規模特認校としての特徴について、関心のある層に届けられていないのではないかと感じた。広く周知することが絶対ではなく、関心層に徹底的に行わなければもったいないと考える。

我々住民は行政に全てをお願いしようとは思っていない。餅は餅屋である。

コミュニティスクールとして学校運営協議会を発足させた後も、我々の経験やアイデア、人手的なものも含めて、できることはたくさんあるので、一緒にやっていきたい。

特色ある教育

地域で子どもを育てることが重要であると思う。都市部の学校と同じように、児童・生徒にタブレットを配って終わりというのではなく、例えば学童の外にも空き家を活用して集まれる場所を作り、地域で運営するのも面白いと思う。

また、黒保根保育園との連携をさらに深め、保育園からの一貫教育を打ち出してほしい。

黒保根学園の校長先生の権限やできることを増やし、地域全体で取り組んでいくと素晴らしい学園になると思うので、よろしくお願いしたい。



心を育む

子どもの成長には、心を育むことが近年特に重要になったと思う。
子どもの力、可能性を広げるための心作りを学んできたので、カウンセラーの資格等を活かしながら、一人の市民として黒保根地域の役に立ちたいと考え、PR部隊に参加した。
さきほど意見のあった、保護者同士の関わりの構築において、ワークショップなどで共有する場を持ち、関わることで、つながりを作ることができると思うので、そうした場を作っていきたい。



少人数教育

私は、少人数で実施される教育等に惹かれ移住した。学園の人数は少ないが、充実した部活動のやり方があるので、充実かと考えている。
一方で、人数が少ないため、テストで順位をつけられないことである。
そうすると、どのぐらいの学力を持っているかが分からないので、黒保根地域だけでなく、桐生市全体で順位が分かるような共通問題でテストを実施してみると良いと思う。
このほか、学園の周知を図るため、開校前に黒保根保育園にパンフレットを置きたいと相談したところ、調整が難しかった。もう少し柔軟な対応ができないか検討してほしい。



つながりを創る

地域おこし協力隊として、移住者、よそ者の視点
また、今後結婚し、子どもができたときのことを考
え、当事者意識を持って、この活動に参加している。
PR部隊の活動方針の一つに「一人一人が活動主
体であり、それぞれが持つ知識、経験、人脈を使っ
て、主体的に行動する。(ゆるくつながりあう)」
があるが、「ゆるくつながりあう」というポイント
は活動を続けていくために重要である。
そうした中では、新しく入学してきた人たちの属
するコミュニティとして、このPR部隊も考えられ
る。
移住も同様であるが、引越して終わりというこ
とではなく、その後のつながりをいかに創っていく
かが重要である。こうした取組を行政、教育委員会
と共有し、連携しながら、行っていくことが重要だ
と考える。



(市長)

「ゆるくつながりあう」、「つながり」について、ゆるやかな
ネットワークを作ることには本当に重要である。普段からのつなが
りがあることで、何かあったときには、そのつながりによって、
自分の力が後押しされ、もっと良いものになる。
また、黒保根学園については、開校前に不安はあったものの、
開校後の雰囲気は良くなったという意見があり、非常に嬉しく思
う。
「選ばれる学園」という意見もあったが、桐生市は令和3年4
月に施行された「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措
置法」という法律において、それまでの黒保根地区に加え、桐生地
区も過疎地域となった。過疎地域の問題は過密地域の問題でもあ
るが、都市部から選ばれる地域”になる必要がある。
この地域にはわたらせ渓谷鐵道や温泉、キャンプ場、西町イン
ターナショナルスクールとの連携など、凄じ可能性があると思う。
どんな提案を出してもらい、多くの人から憧れられたり、選
んでもらえる地域になれるよう、黒保根学園もその一つとっか
かりとして、黒保根地域全体を盛り上げていけるよう、皆さんの
力を貸してほしい。



西町インターナショナルスクールとの 卒業後の交流

(市長)

ここで一つ意見を伺いたいのだが、黒保根地域の特色ある教育として実施している「西町インターナショナルスクール交流事業」について、せっかくのつながりなので卒業後にもそのつながりを活かした、新たな取組ができるの良いのではないかと考えているのだが、どうだろうか

私は当時、バディを組んでいた西町の子と文通をしていた。バディと一対一で英語と日本語でやり取りを続けていくのも勉強になるし、面白い取組になると思う。

伝統的な取組として、里山と都会とのつながりがあるのは素晴らしいと思う。例えば、二十歳などの一つの節目に黒保根でキャンプする事を行うのも面白いと思う。ポイントになるのは、そこまで至るプロセスであり、連絡を取り合って実施まで作っていくことが重要になる。そこで、焚火を見ながら語り合うのもメモリアルなイベントになると思う。

このほか、水沼マルシエにブースを設けることも面白いと思う。ブースでは英語教室でも良いし、そこで生まれる交流が黒保根の子にとっては地域愛の醸成に繋がりと、西町の子にとっては縁のあった地域との関わりを深める経験に繋がると考える。

ゲームをきっかけに連絡を取り合うことが始まることもある。学校行事以外の仕掛けとして入れられると良いと思う。



黒保根地域の特色ある教育の推進のために 桐生市と共創したいこと 等

この1時間だけでこれだけの意見が出てくるポテンシャルがある。実行部隊として我々がいる。学校だけがやる、行政だけがやるのではなく、それぞれの役割でみんなやれると良いと思う。色々な方たちの協力を仰ぎ、役割分担を持ち実施していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

黒保根学園の子どもの前で、黒保根地域のお米や野菜の魅力を伝えたところ熱心に話を聞いてくれ、将来の夢を農家としての子もいた。地域おこし協力隊の活動で実施しているマルシェや移住相談と一緒に行うことも面白いのではないかと考える。

黒保根地域ではこうした面白い活動がどんどん生まれたいので、広報などで取り上げてほしい、桐生市全体にもっとPRしてほしい。

黒保根学園は黒保根地域だけの問題だという認識を改めてもらいたい。人口減少という消極的な背景の下、統合を進めた経緯はあると思うが、市内全部の小中学校もいずれ小中一貫校にするという選択が出てくる。

そうしたときには消極的に考えず、例えば、ものづくりに特化させた学校をコンセプトとするなど、地域の特色を生かした学校づくりを検討してほしい。そのモデルに今般の黒保根学園はなると考える。

そうしたことから、桐生市民みんなが我がごととして捉え、黒保根学園を応援してほしい。





(市長)
先日開催された黒保根町民と合同となる初めての運動会「くろほね春季大運動会」では、9年生が1年生の面倒をみるというエピソードがあったが、正に地域で学園を創っていくコンセプトである黒保根学園の醍醐味であると思う。

そういったところでは、子ども同士のコミュニケーションを図るため、スクールバスの送迎は通えるぐらいの距離で降ろして、みんなが通学するのも良いのではないかと思う。

黒保根地域の伝統芸能である前田原と涌丸の獅子舞については、中々伝承が難しいと聞いているので、運動会の出し物にして子どもに見てもらうのも良いのではないか。

あるいは、獅子舞を学園の子どもが躍れるように取り組むのも良いのではないかと思う。

西町インターナショナルスクールとのその後の交流についても、様々な意見をいただきたいがたい。日立市と実施している臨海学校でもキャンプファイヤーを実施しており、そこで打ち解けて友達になれているようであるので、何かそうした仕掛けをしたいと思うので、みなさまの協力をお願いしたい。

今般の黒保根学園の開校については、桐生市全体の課題の先行事例として捉え、今後の検討に当たっていききたいと思うので、みなさんも誇りを持って素晴らしい学園にしていってほしい。

今後も様々なアイデア、提案ができるよう、このミーティングをまた一つの契機にしてもらって、教育委員会も行政も、皆さんもオープンな関係で一緒になって創り上げる学園のコンセプトの下、より良い学園にしていきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。